

## 1. 研修概要

私が今回訪問したのは、長野県にある鬼無里村だ。鬼無里村は 2005 年に長野市に合併された上水内郡にある村である。1000 人ほどの人口と 130 km<sup>2</sup>の面積を有している。かつては、麻の生産が盛んであった。この地域には木曾義仲公や鬼女紅葉伝説などの著名な伝承が残っている。今回はその中でも、鬼無里観光振興会のホームページに観光モデルコースやフットパスが掲載されている鬼女紅葉伝説に着目した。

## 2. 研修動機

私は、数年前から民間伝承に興味を持ち、民間伝承が地域に与える影響を調査したいと考えていた。しかし、民間伝承をもとに地域選びを進めるにあたり、民間伝承の地を巡ることの難しさと直面した。何故なら、民間伝承を基盤とした観光政策を積極的に行っている地域が少なく、また、伝承の地域そのものが不明であることも少なくないからだ。その中でも鬼無里村では鬼女紅葉伝説の伝承を基にした観光モデルコースや、フットパスをホームページに掲載していた。伝承を基にした観光モデルを実施している鬼無里村に研修に行くことで、民間伝承の観光的效果や地域とのつながりを調査することが出来ると考えた。

## 3. 鬼女紅葉伝説あらすじ

平安時代、京の都に紅葉（もみじ）という美しく聡明な女性がいた。彼女は源経基の寵愛を受けるが、正室の嫉妬を買い、呪術を使って正室を呪ったとの疑いで都を追放される。紅葉は信濃国の戸隠山へ流され、荒れた山奥で息子・経若丸を産み育てながら、里人に京の文化や医術、手芸を教え、「貴人」として敬われるようになる。彼女は土地に京の地名を模して「二条」「三条」「加茂」「春日」などを名付け、都への憧れを忘れなかった。

やがて紅葉は、盗賊と手を組み、山賊行為を働いたとの噂が広まり、朝廷は彼女を討伐するために武将・平維茂（たいらのこれもち）を派遣する。維茂は戸隠山に赴き、紅葉の一行と遭遇。紅葉は美しい女性の姿で宴を開き、維茂をもてなすが、酒に酔わせて油断させた隙に鬼女としての本性を現す。維茂は武内神から授かった神剣を手にし、紅葉との壮絶な戦いの末、彼女を討ち取る。

紅葉は 33 歳で命を落とし、その強さと妖術から「鬼女」と呼ばれるようになる。彼女が倒された地は「鬼のいない里」すなわち「鬼無里（きなさ）」と名付けられたという。しかし、鬼無里に伝わる伝承では、紅葉は村人に知恵と技術を授けた「貴女」として描かれ、単なる悪鬼ではなく、文化の担い手としての側面も持つ。

## 4. 鬼女紅葉伝説概要

鬼女紅葉伝説は平安時代に信濃国・戸隠山に都から流された紅葉という女性の話が核になっていると考えられている。しかし、現在の鬼女紅葉伝説に至るまで伝説の内容は時代とともに変容してきた。鬼を討伐した人物の名前や討伐された側の名称も変化していた。また、能や浄瑠璃、人形芝居などの観劇の様なコンテンツから、浮世草子、読本などの紙媒体のコンテンツに変化している。

鬼女紅葉伝説が伝わる地域に今回訪れた鬼無里と戸隠が存在する。鬼無里には紅葉が過ごした内裏屋敷跡や紅葉のお墓がある一方で、戸隠には維茂が放った矢が飛んでいったとされる柵神社や戦いの舞台である毒の平(ぶすのだいら)がある。

また、鬼無里と戸隠では伝説の伝わり方が異なっている。鬼無里では、地元の人々に読み書きや手芸、医術を教えていた為、大変慕われていたと言われている。その為、鬼無里に伝わる伝説は、紅葉の人間らしい側面が強く残っている。反対に、戸隠には戦いの地になったことに由来しているのか、鬼女の側面が強く残っている。

## 5. 研修内容

### ◇鬼無里ふるさと資料館 訪問・見学

この施設には、鬼無里村のかつての暮らしの様子や麻の生産などの産業に使用されていた道具などの展示もあった。また、祭りの映像や実際のお神輿を観覧することができ、鬼女紅葉伝説の物語の掲示も行われていた。物語は松巖寺にある絵巻物を一部省略して掲示されており、ホームページや一枚刷りの紹介紙よりも詳細な伝説を知ることが出来た。

受付では鬼女紅葉伝説のキーホルダーやガチャガチャなどがおいてあった。

### ◇鬼無里ふるさと資料館、鬼無里村役場職員へのインタビュー

まず、鬼女紅葉伝説の歴史について教えていただいた(紅葉伝説概要,3段落記載)。次に今回訪問を決めるきっかけとなった、フットパスを製作する経緯を伺った。フットパスは現在から8年ほど前に、オーバーツーリズムなどの観光ニーズの変化や地域にある自然園の休園によって始まった。京に所縁ある地名や名所の数、心地よい散歩道などの特徴から、フットパスに向いていると考えたそう。フットパス製作決定の翌年にはいくつかのイベント事業が行われ、200弱の人が参加した。これらのイベントを経て、鬼無里フットパス「谷の都コース」が完成した。これらの事業の効果として、地域性の向上、地域社会意識の助長、交流人口の増加、里山景観保全などが挙げられていた。中山間地特有の悩みを、フットパスに取り組むことで改善をはかっていた。フットパスは現在3種類に増えている。

次に、鬼女紅葉伝説と観光の関りについて教えていただいた。昭和59年に鬼女紅葉太鼓が披露され、3年後にはメキシコ公演が行われていた。鬼女紅葉まつりや法要、紙芝居、観光グッズなど幅広いコンテンツになっていた。

また、戸隠観光協会と協力し、鬼女紅葉伝説マップも作成された。

鬼女紅葉伝説の知名度はあまり高くなく、地元の人も興味がある人は多くない。しかし、鬼女紅葉伝説には熱心なファンも一定数存在しているようだ。

#### ◇鬼女紅葉伝説に所縁のある場所の訪問

松巖寺には紅葉のお墓、本殿には紅葉の守護佛地藏尊や紅葉観音、鬼女紅葉伝説の絵巻物が保管されている。

鬼無里神社は人気がなく、自然に囲まれた侘しい場所であった。

## 6. まとめ

#### ◇鬼無里村に関して

鬼女紅葉伝説が史実であったかどうかは、不明であり、今後判明することもないだろう。伝承は伝わっている地域や解釈により、大きく形が異なっている。それが、伝承の良いところでもあると、職員の方が教えてくれた。

フットパスはその特性上、観光効果を明確に感じることはできないそうだ。今後はフットパスコースの拡充、他地域との交流、ガイドの育成、次世代への継承に励んでいくとのことだ。また、グッズの種類も増えていく見込みだ。

#### ◇民間伝承を利用した観光業

今回のインタビューを通して、フットパスによって民間伝承所縁の地を巡るコースを示すことはとても良いと感じた。所謂、聖地巡礼のコースが用意されていることは、観光者のハードルを良い意味で下げることが出来ると考える。しかし、伝承の知名度がたかいものは非常に稀であるため、知名度を上げることにどのように努めていくべきかを模索する必要がある。知名度を上げるにあたり、伝承そのものの雰囲気や歴史を欠いてしまうことは、避けてしかるべきである。

## 7. 終わりに

今回の研修にあたり、ご協力くださった鬼無里観光振興会職員様及び鬼無里ふるさと資料館職員様にお礼申し上げます。